

長野県 JAみなみ信州

農業者の所得増大・農業生産の拡大

輸出拡大の取り組みを強化して シーズンを通じた安定出荷と販売価格維持をはかる

※シンカは、以下の3つの意味を含めた言葉。

自己改革の進化から深化へ、真価を発揮する
3つの「シンカ」

自己改革 実践中!



中華圏の「春節」に狙いを定めて「市田柿」を輸出

JAみなみ信州は、2017年度から特産「市田柿」の輸出を強化しています。2019年には「市田柿海外輸出事業プロジェクト」を開始。包装用フィルムの改良などで課題だった賞味期限を60日から90日に延長し、東南アジアを中心に中華圏の春節に合わせて市田柿を輸出しました。2021年6月にはベトナムの地理的表示 (GI) 保護制度に登録されるなど、輸出拡大に向けた対策を行った結果、輸出量は2017年度の35^tから2023年度は99.4^tと約3倍に増加しました。JAの寺沢寿男組合長は「国内の市田柿の市場は年末年始がピーク。年が明けると少しずつ国内需要が減少することから輸出の強化が重要」として、シーズンを通じた安定出荷と販売価格維持をはかるため、輸出拡大に向けた取り組みを推し進めています。

日系企業をパートナーに選び、商流をまとめて価格競争を防ぐ

2023年度は、ベトナムの販路開拓を狙った市場調査や、日系の百貨店やコンビニエンスストアでのイベントを実施し、現地の富裕層をターゲットに販路を広げました。台湾では試食宣伝や現地調査のほか、日系企業の「ABC Cooking Studio台湾」と連携し、おせちメニューに「市田柿」を使用。会員向けの試食会の開催やPR動画の配信などで現地での消費拡大、認知度向上に取り組みました。販売戦略についてJA担当者は、「認知度が低い市田柿なので日系企業をパートナーに選んだ。取引先の商流をまとめることで価格競争を防ぎ計画的な販売に取り組んでいる」と話しました。現在は、台湾、香港、シンガポール、マレーシア、タイ、ベトナム、カナダ、米国へ輸出しています。



特産の市田柿



台湾で試食販売を実施
(2022年1月)

生産者の所得増大、安定出荷を図るため、輸出拡大を推し進める

今後は欧米を含め新規輸出国の可能性を探り、海外の地理的表示 (GI) を活用した輸出事業拡大を推し進める予定です。市田柿の輸出は順調に拡大しており、2023年度は99.4^t、2億4千万円の実績を上げ、2024年度は110^t、2億7千万円の販売を目指しています。JA担当者は、「海外の顧客は確実に増えており、市田柿の認知度は向上している。設定した数値目標に向けて東南アジア以外の市場も開拓し、生産者の手取り向上につなげたい」と意気込みを語っています。

組合員の声



輸出に取り組んだ事で年明けの価格が安定したので以前より収入が安定した



日本だけでなく多くの方に市田柿を知って食べていただけるのは嬉しい

市田柿の輸出実績・計画



問い合わせ JA全中 JA改革・組織基盤対策部 JA改革・組織基盤対策課 ☎03-6665-6240 ✉jakaikaku.s@zenchu-ja.or.jp

JAグループのホームページから、自己改革の成果をまとめた動画や全国のJAの取り組みがご覧になれます。

<https://org.ja-group.jp/challenge/>

発行/ JA全中(一般社団法人 全国農業協同組合中央会)



JAグループ

耕そう、大地と地域のみらい。